

## 地域活性化とロボット関連技術の 発展を目的とするレスキューコンテスト



### Drone View

我々チーム「Drone View」は、(株)mmガード（東京都中央区 / AI 開発担当）と（株）コアライン（青森県八戸市 / ドローン運行担当）の合同チームです。  
「違いがわかる AI」「Drone View」を使って課題にチャレンジします。  
今回は、DJI 社の最新鋭機 M30T がどこまで人命救助に活用できるかを試そうと意気込んでおります。M30T Dock Version の日本発売が間に合わず、完全な装備での参加とはなりません、過去の経験をもとに全力でチャレンジします。



### 株式会社東北ドローン & 東北大学 田所研究室

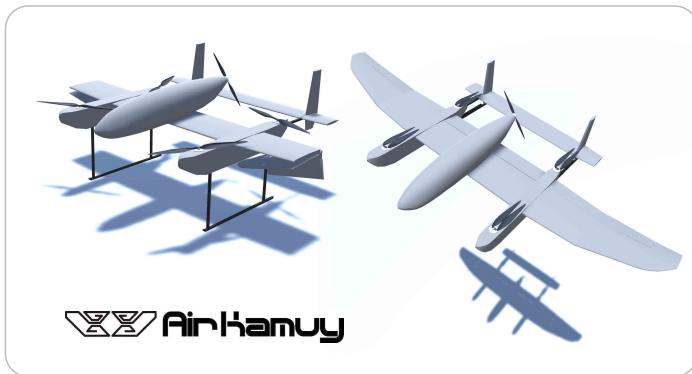
(株)東北ドローンと東北大学 田所研究室（岡田准教授、小島助教、および学生有志）にて現在、ドローンを活用した夜間遭難捜索を可能とするための共同研究を実施しております。その一環として今大会に参加をさせていただきます。東北ドローンでは、「実証から実装へ」をスローガンに人の為のテクノロジーとして遭難救助ソリューションを創造してまいりたいと考えております。まずは今大会で結果が出せるよう、頑張ります！



### Team ArduPilot JAPAN (TAP-J)

TAP-J は、様々な無人機の制御に適應できるオープンソースのフライトコントロールプログラム「ArduPilot」に可能性を感じた日本国内の有志の集まりです。私達は、「ArduPilot」を使用して、様々な困難な課題を革新的なアイデアと技術を用いて解決していく事を目的として活動しています。そして、世界中で ArduPilot が様々な場所で役立ち広く使われることを強く願っています！！

過去の大会成績、2017 年：発見達成、2018 年：駆付達成、2019 年：駆付達成、2020 年：山岳遭難救助の実証実験 遠隔赤外線解析で参加



### 株式会社 AirKamuy

株式会社 AirKamuy は、固定翼 VTOL 機の開発・製造を行う、ものづくりベンチャー企業です。当大会の出場を最初のターゲットとして今年 8 月に設立いたしました。今回の出場機体「X-1」は、設計から製造までを 3 ヶ月で実施。離着陸時は折りたたまれ、離陸後に展開を行う翼を搭載するなど特徴的な機体で、狭い限られた離着陸スペースで運用が可能で、2 時間超の飛行や、最大 15kg のペイロードの輸送を行うことができる性能を有しています。まだまだ荒削りの部分もありますが、暖かく見守っていただければと思います！

## ご挨拶



### 上士幌町 町長 竹中 貢

ご参加の皆様。コンテストに参加いただき誠にありがとうございます。コロナにより 2 年間コンテストの開催ができませんでしたがおかげさまで今年再開することができます。コンテストの開催に際しては、参加をいただく各チームの皆様をはじめ、コンテスト会場をお貸しいただく上士幌町様、多くの関係者の皆様のご支援やご協力をいた

だに改めて感謝申し上げます。今年のテーマは、「リモート」です。コロナ禍の影響で、リモートで仕事をされるようになった方も多いと思いますが、山の遭難者救助という場面においても、ロボットをリモートで活用することにより、「より早く」、「より安全に」に対応できるようになる可能性を秘めています。リモートならではの困難な面があります。また、競技エリアは過去最大の大きさになっており、検索するマネキンの数も増えています。このようなチャレンジングな課題設定にも関わらず、これまで達成チームの出ていなかった課題 3 を含めて、4 つのチームが課題に果敢にチャレンジします。今年も皆様のご支援の下、安全にコンテストの運営を行うとともに、参加チームが全力を出し切って課題を達成することを期待しています。



### Japan Innovation Challenge

#### 実行委員長 上村 龍文

ご参加の皆様。コンテストに参加いただき誠にありがとうございます。コロナにより 2 年間コンテストの開催ができませんでしたがおかげさまで今年再開することができます。コンテストの開催に際しては、参加をいただく各チームの皆様をはじめ、コンテスト会場をお貸しいただく上士幌町様、多くの関係者の皆様のご支援やご協力をいた

だいております。ここに改めて感謝申し上げます。今年のテーマは、「リモート」です。コロナ禍の影響で、リモートで仕事をされるようになった方も多いと思いますが、山の遭難者救助という場面においても、ロボットをリモートで活用することにより、「より早く」、「より安全に」に対応できるようになる可能性を秘めています。リモートならではの困難な面があります。また、競技エリアは過去最大の大きさになっており、検索するマネキンの数も増えています。このようなチャレンジングな課題設定にも関わらず、これまで達成チームの出ていなかった課題 3 を含めて、4 つのチームが課題に果敢にチャレンジします。今年も皆様のご支援の下、安全にコンテストの運営を行うとともに、参加チームが全力を出し切って課題を達成することを期待しています。